

人生は長い。だからこそ考えたいのは

健康寿命。

「健やかに」「いきいき」と過ごしたいものです。

元気に過ごす人生の期間を「健康寿命」といいます。

日本新薬は、一人ひとりの命のために、健康寿命が延びる、
そんな未来のために、新しい薬を創っています。

健康未来、創ります
日本新薬
 NIPPON SHINYAKU CO., LTD.
<http://www.nippon-shinyaku.co.jp>

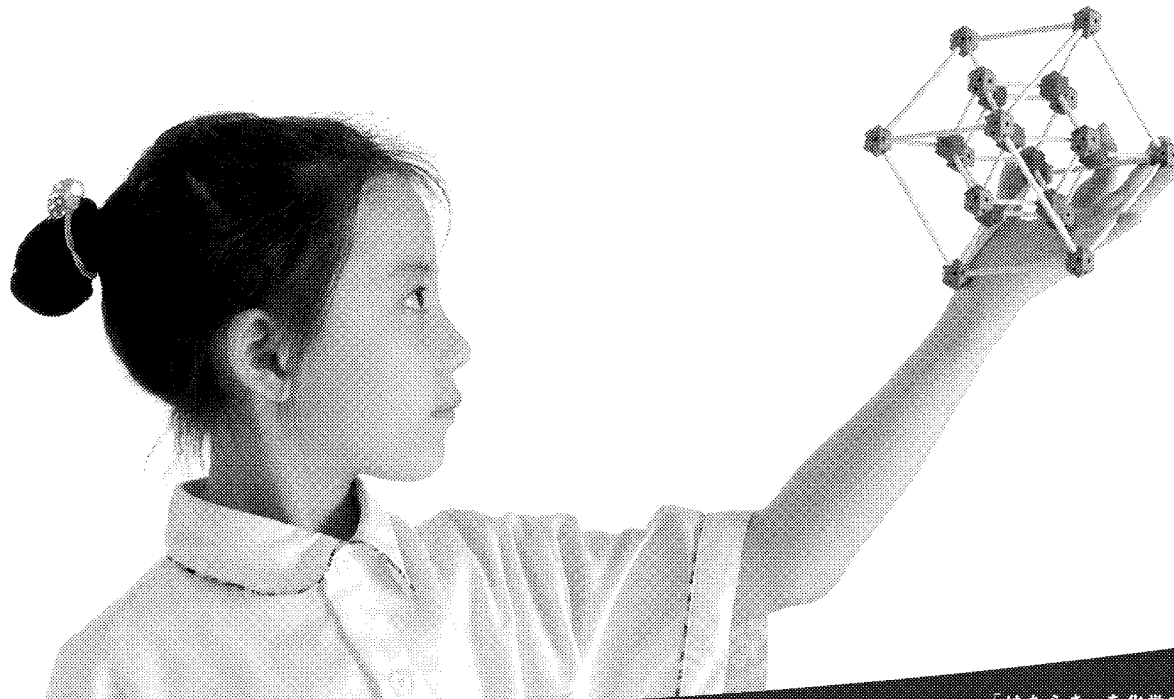
「はたらき」を化学する

人と地球の未来に役立つ、夢あふれる化学製品を生み出したい。

もっと快適に、もっと地球にやさしく・・・

パフォーマンス・ケミカルズ
その想いを胸に「はたらきの化学製品」を開発し続けています。

今より、もっと素敵な明日をみつめて、チャレンジを続けます。



本社 〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1
<http://www.sanyo-chemical.co.jp/>

「はたらき」を化学する
三洋化成
 工業株式会社

新たな成長への軌跡 モノづくり先進都市 京都

京都環境ナノクワスター

次世代部材の実用化に成果

プロジェクト終了後の「自立化」が課題



産学公連携プロジェクト「京都環境ナノクワスター」が3月末で終了する。2002年の「京都ナノテク事業創成クラスター」から足かけ11年、府市連携の下、京都高度技術研究所が中核となり「環境ナノ部材」を研究開発。「既存製品の性能を一ケタ向上」させる次世代部材の実用化という高い目標に挑戦した。代表的な成果では京都大学、ロームを中心とした炭化ケイ素(SiC)半導体の商用化が挙げられる。またポリマー微小電気機械システム(MEMS)やフレキシブル有機センサーなど、取り組みの成果は多岐にわたる。昨年末、同クラスター

は京都以外では初めて東京市内で成果発表フォーラムを開いた。京都を代表する研究者、企業の研究トップが出席し、京都発の技術を紹介。プロジェクト終了後を見据え、国の研究機関や企業への成果展開を狙った。

特に同クラスターでは「出口を意識してきた」「アドバイザーの松波弘之京都大名誉教授。目的は課題解決やビジネスへの展開による「地域経済の活性化」にあるためだ。成果指標の一つ、事業の売り上げ実績は約1

00億円と当初計画の75億円を大きく上回った。また国内外のクラスターとの連携も積極的に進めた。パワー半導体では東海クラスターと協業、海外研究機関と連携し、企業による研究成果の事業展開も支援した。

「ナノテクの本格化は20年(2010年)(市原達朗事業総括)と話すように、研究が本格的に花を開くにはもう少し時間がかかる。プロジェクト終了後の「自立化」は課題だ。地域経済の活性化という視点では、技術基盤を共有するネットワークが活用できそうだ。しかし環境革命のような産業構造の改革期には、機動力のある「ベンチャー」の出現が不可欠(市原事業総括)とも指摘される。環境産業都市創造には、技術だけでなく産学公連携による幅広いスキームの構築が求められる。

京都産業エコ・エネルギー推進機構

法人格取得で活動基盤を強化

府や市、京都商工会議所、京都工業会らで構成する「京都産業エコ・エネルギー推進機構」が3月、一般社団法人として法人格を取得。活動基盤を強化して、京都の強みを生かした世界をリードするエコ・エネルギー関連産業の創出を目指す。2012年7月に機構が発足後、中小企業のエネルギー「自立化」支援を中心に事業を進めてきた。機構には府内企業290社が参加。自治体、経済団体、産業支援機関を挙げたオール京都体制で、産業創出のプラットフォーム的役割を担う。新年度は「グリーンイノベーション」市場参入支援事業を計画。エコ・エネルギー分野で事業化や市場参入を目指す中小企業に対し、原材料・装置や試作改修といった製品開発費に補助金を交付する。産業創出に向けた調査研究も行う予定だ。

京都市は、低炭素社会の実現に向け温室効果ガスの大幅削減などに取り組む「環境モデル都市」の一都市として、バイオディーゼル燃料の活用で全国をリードする。12年度から環境省の委託事業として、市内の家庭や事業所から排出される動物性や植物性の廃油を用いて軽油と同等の品質の燃料を製造する技術の研究開発を産学公連携で進めている。事業費は4億2000万円を見込む。同市は使用済み大ぶら油など植物油からバイオディーゼル燃料を製造し、現在でみ収集車やバスに年間約130万リットル利用している。しかし、利用の際特別なメンテナンスが必要といった問題や、原料が植物油に限定されるといった技術的課題があった。今

バイオマス活用

京都市が産学公で連携

動・植物性の廃油を用いた燃料製造技術を開発

後はバイオなど動物油も使える技術の開発で車両への適合性を高める。市内で廃油を原料に燃料を製造し軽油から置き換えることで、年間4000トンの二酸化炭素(CO2)削減効果が見込めるといふ。研究開発では、基礎研究と並行して日量500リットルの燃料製造実験プラントを同市伏見区に建設し燃料を利用した車両走行試験も実施。その後5000リットルのプラント建設を検討し、18年度からの実用化を目指す。地元企業の島津テクノリサーチ(同市中央区)が燃料の分析や評価を行い、トヨタ自動車や日野自動車、タコマなど他地域の企業も参画。京都大学など学識経験者の協力も得る。動・植物性の油脂由来の廃油に触媒と高温の熱を加え反応させて得られる分解油に水素を添加して製造する。劣化しにくく品質が安定するという。すでに同50リットルの燃料製造装置では製造に成功している。燃料の製造に用いる熱や電気、水素については、家庭の生ごみなどの有機物を発酵して発生させるバイオガスを活用し供給することも検討。「トータルとしてのバイオマス活用を進めたい」(門川大作市長 考えだ)。

Horizon

The World Loves Books.

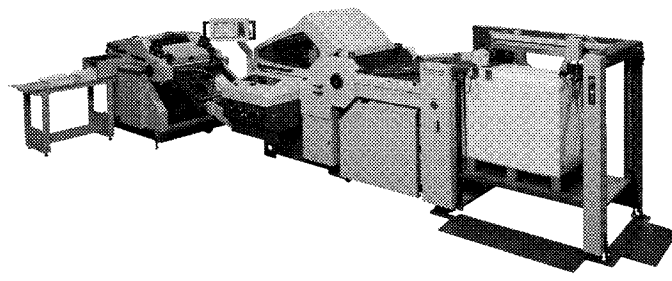
www.horizon.co.jp



「綴じられた本」から伝わる温かみや価値は、大切に継承したい世界共通の文化です。
 デジタル技術を最大限に活かした製本機械を通じて、「本」の持つ良さを大切に守っていきます。

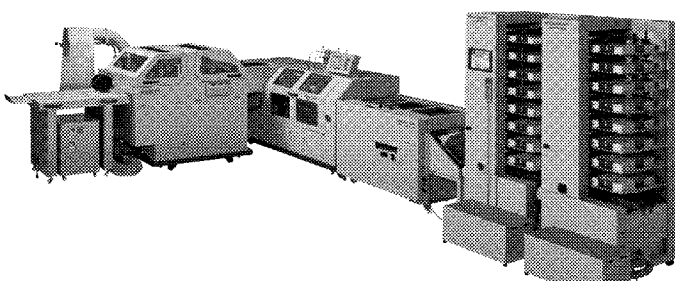
菊全判全自動紙折機+パイル式プレススタッカー
AFC-746F+PSX-56

タッチパネルからの直感的な操作でローラギャップを含む全てのセットが自動で行えます。オプションのパイル式プレススタッカーPSX-56の接続で更に作業性が向上します。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム
StitchLiner6000

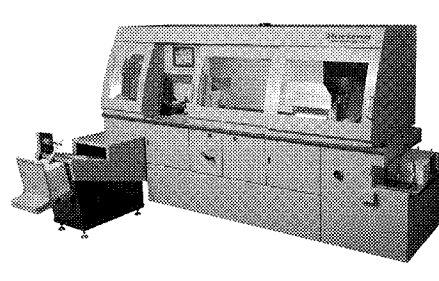
「ペラ丁合機・筋入れ折り装置・鞍掛け中綴じ機・三方断裁機のシステム化」という新発想のシステム。時間6,000冊の処理速度で、中・小ロットの仕事から大ロットの仕事まで、高速かつ効率的に処理できます。



自動無線綴機4クランプタイプ
BQ-470

カラータッチパネルに製本内容を入力するだけで、全てのセットアップが自動で行われます。交換式メルトタンク機構で、用途に合わせてEVAとPURの切り替えが可能です。

PUR対応



太陽精機株式会社
 www.taiyo-seiki.jp

【京都工場】
 〒601-8204 京都市南区久世土川町242
 TEL. 075 (921) 9211 (代) FAX. 075 (934) 8886
 【びわこ工場】
 〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭宇城ノ下1600
 TEL. 0740 (25) 4567 (代) FAX. 0740 (25) 8008

【九州営業所】

〒601-8206 京都市南区久世土川町242
 TEL. 075 (933) 3060 (代) FAX. 075 (933) 4025

【九州営業所】
 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17
 TEL. 092 (626) 8111 (代) FAX. 092 (626) 8112

【東北営業所】

〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9
 TEL. 03 (3652) 7631 (代) FAX. 03 (3652) 8083

【東北営業所】
 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1-7-31
 TEL. 022 (782) 2821 (代) FAX. 022 (782) 3068